

平成25年度第6回政策会議

日時 平成26年1月22日(水) 14:30~15:00
会場 市長会議室
参集者 工藤市長 中林副市長 片岡副市長 山本教育長 秋田企業局長
谷口企画部長 川越総務部長 山田財務部長 川村財務部次長,
小林財政課長

若松地区旅客船ふ頭の整備について

◎対応 平井港湾空港部長 松塚港湾空港部次長 藤森港湾課長
鹿内管理課庶務係長 水島港湾課主査 藤澤港湾課主査

◆ 議題の趣旨 ◆

若松地区における旅客船ふ頭について、港湾計画の改訂および国に対し、平成27年度新規事業要望を行うことについて協議しました。

◆ 協議の結果 ◆

港湾計画の改訂および国に対し、平成27年度の新規事業要望を行うことについて、了承されました。

◆ おもな発言 ◆

□藤森港湾課長

若松地区旅客船ふ頭の整備について、まず、函館港における旅客船の状況だが、毎年多くの旅客船が入港しているが、現在専用の岸壁がないことから、主に港町ふ頭を利用している。港町ふ頭は、中心部まで遠く離れ、乗客に対し不便を強いている等、観光への悪影響が懸念されている中、近年カジュアルクルーズの増加に伴い、年間十数隻だった入港隻数が、来年度は過去最高の35隻が予定され約7万人が本市を訪れる見込みである。

次に港湾計画の経過だが、旅客船ふ頭計画については、平成3年の港湾計画で初めて若松地区に計画を位置づけ、その後平成17年の港湾計画改訂で、規模や形状などの見直しを行い、同じ若松地区において新たな旅客船ふ頭として計画に位置づけているところである。

次に、新規事業要望の考え方だが、大型旅客船によるクルーズ需要の増加に早期に対応する必要があること、北ふ頭地区など他の整備事業等の完了に一定の目処が立ってきたこと、多くの乗客を市の中心部に呼び込むことで、観光や経済、さらには中心市街地の活性化が図られることなどから、国に対し、平成27年度新規事業要望を行うものである。

次に今後のスケジュールだが、平成26年度は港湾計画の変更とともに、国への平成27年度新規予算要望を行うものである。

■工藤市長

若松地区のふ頭整備後、乗客の動線はどう考えているのか。

■平井港湾空港部長

ふ頭からの臨港道路を駅前道路とつなげて、駅裏、駅舎西口に出てくるイメージで検討している。

■工藤市長

朝市や駅の所にすぐ出てこられるようになると、中心市街地の活性化に大きく寄与する。

■山本教育長

年間7万人が訪れるのであれば効果も大きい。

■平井港湾空港部長

27年度についても、クルーズ船は30数隻函館に寄港する予定である。

■工藤市長

本件については了承した。今後は、具体のスケジュールや事業内容等について、国ともよく協議をしながら検討を進めて欲しい。事業費についても、できるだけ圧縮できるような手法を国ともよく協議した中で進めて欲しい。